

クラス	QA310	担当教員	吉野 真紀
テーマ	体験的心理療法と臨床心理アセスメントを用いた自己との対話、自己実現		
著書・論文 研究課題等	<p>『現代のエスプリ別冊 投影法の現在 ジェンダー問題と投影法』至文堂（2008；分担執筆）</p> <p>「児童思春期の性別違和における心理的支援—臨床心理士の立場から—」 精神神経学雑誌 119-1（2017）</p> <p>「大学附属医療施設における臨床心理アセスメント教育の実践—精神科後期研修医・新人臨床心理士への実践指導より—」 日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 12（2017）</p> <p>『声に出してみることで開かれた次の景色—ゲシュタルト療法におけるコンタクトおよび図地反転の気づき—」 臨床ゲシュタルト療法研究 4（2019）</p> <p>臨床心理面接に活かす包括システムによるロールシャッハ・テスト—摂食の問題を呈した女性の4年間の臨床心理面接前後の変化— 日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 14（2019）</p> <p>「心理療法におけるイメージの治癒力—イメージ法を援用したうつ病女性との心理面接過程から—（2020）</p> <p>【研究課題】性別違和のある方の自己実現過程と心理的变化、こころのまんなかにつながるワーク、など</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：体験的心理療法、臨床心理アセスメント、自己との対話、自己実現、人間性心理学			
<p>目的、内容、方法、等：</p> <p>ゼミでは、臨床心理アセスメント（心理検査など）や体験的心理療法（ゲシュタルト療法、表現アートセラピー）などの心理臨床的アプローチを通して、人がどのような気づきや変容を体験していくのかを主なテーマとします。関連文献の輪読・発表・ディスカッション、ワークを通して体験的に得る気づきの両方から紡ぎ、学び深めることを目的とします。</p> <p>担当教員は精神科病院臨床を中心に多職種と連携し、臨床心理アセスメント・心理療法を実践してきました。また性別違和のある方々への支援にも携わってきました。その中で、クライアントが悩みや生きにくさを抱えつつもどのように選択して自分らしく豊かに生きていくかということを中心に考え、自己との対話を促す体験的な心理療法と人のこころの変容過程に関心をもっています。人がこころのわだかまり（未完の出来事）を完結し豊かに生きていくための体験とは何かを考えると同時に、他者支援に必要な素地として“自分を知ること”に関心のある学生さんたちとともに学ぶゼミを目指しています。</p> <p>授業計画：</p> <p>3年次には、体験的心理療法や臨床心理アセスメントのワークを行い、自己と対話をする方法などを体験します。また、関連文献の抄読やディスカッションを通して基礎知識を習得します。浮かんだ連想や疑問を頭の中にとどめておくのではなく、言語化して表出し、他者とやりとりをする練習を積極的にゼミで実践することを求めます。自分自身を知ること、他者（仲間）を知ること、関係性を知ること、を学んでください。後期は、各自興味関心のあるテーマを持ち寄り発表し、研究手法の学習や研究テーマを絞っていくことを目指します。</p> <p>4年次には、それぞれのテーマに沿って研究を具体化し進めます。関連論文を積極的に読み込みながら論文の書き方を勉強し、ゼミでの報告を重ね、卒業論文の執筆を行います。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> ◆ ゼミでは、卒業研究テーマに取り組むことはもちろん共通の目的ですが、「自分自身を知ること」「他者・仲間を知ること」「関係性を知ること」に関心がある方、苦手であってもチャレンジしてみたい気持ちのある方を歓迎します。心理臨床の醍醐味を味わって下さい。 ◆ 心理療法・臨床心理アセスメントと自己実現を主なテーマに挙げていますが、その他の領域にも広がりをもつテーマであると考えています。学びの過程で興味関心をもったテーマを追求し、主体的に取り組むことを応援します。 ◆ 自分のこととして能動的にゼミに参加し自分を表現すること、仲間の表現を尊重しメッセージに耳を傾けること、を期待します。楽しく交流しながら研究を進められるようにともに頑張りましょう。 			